

## 2020年度 看護系学会等社会保険連合 研究助成 研究報告要旨

テーマ	白癬肥厚爪を改善するためのフットケア方法に関する多施設共同前方視的観察研究-病院・診療所・訪問看護・介護施設の解析
研究メンバー	大西 みさ
申請学会名	日本看護研究学会

※1000字程度

- 1. 研究目的:**本研究は、糖尿病患者の白癬肥厚爪を改善するため病院・診療所・訪問看護・介護施設で爪白癬フットケア療法（OFT）の有効性を明らかにすることである。
- 2. 研究方法:**研究デザインは主治医の治療方針に応じ参加登録施設の協力を得る方法として多施設共同前方視的観察研究である。対象は、糖尿病で足趾の爪甲混濁があり爪の厚さが1.3mm以上を有し、病院・診療所・訪問看護・介護施設等を利用し家族も含め研究協力を同意した爪白癬患者である。OFTは、重炭酸（アルカリ性の重炭酸タブレットの足湯または入浴）・グラインダー法（有資格者が行い、無資格者はガラス爪やすりで肥厚爪を研磨、爪やすり用ゾンデまたは耳かきで爪溝除去する）・ヒルドイド塗布（入浴後10分以内に足趾の先端からふくらはぎまで毎日塗布する）・足つぼ押し（研究代表者の病院HP配信中のセルフフット動画を情報提供）である。フットケア方法は規定せず、OFTが全部できない場合は部分的に組み合わせて行う方法について選択し施設が1年間継続する。爪白癬治療（感染面積・新生爪伸長・爪の厚さ）や血流促進（母趾SPO<sub>2</sub>、脈拍、収縮期血圧、母趾と小趾の角度、HbA1c）の評価を初回、1、3、6、9ヶ月、1年後の合計6回測定し1年後KOH直接鏡検で白癬菌の有無を確認した。統計学的処理は、対応のあるデータを一元配置分散分析、1年間の測定期間と要因（重炭酸の継続、グラインダー法、エフィナコナゾール）の比較は、対応のある二元配置分散分析を行った。倫理的配慮は対象者又は代諾者となる家族に、説明文書で研究方法等を説明し文書で同意を得た。倫理審査委員会で承認を得た。
- 3. 結果:**対象は118名。背景は、年齢71.9±12.6（37～91）歳、性別は男性65.3%、女性34.7%、糖尿病罹病期間は17.1±13.7（1～50）年、病院68.7%、診療所18.6%、訪問看護4.2%、介護施設（通所介護・住宅型老人ホーム）8.5%であった。OFTは感染面積率・新生爪伸長・爪肥厚・母趾SPO<sub>2</sub>・足趾角度は1年後まで改善（p<.001）、KOHは29.0%が陰性であった。関連要因は重炭酸の継続・グラインダー法（p<.001）、エフィナコナゾール（p<.2）であった。
- 4. 考察:**爪白癬の評価は、全ての施設で初回と比較し、1年後まで全項目で改善があり、重症爪白癬においても爪白癬の治療と血流促進ケアを同時に複数の方法で1年間継続して行うことで改善できることが示唆された。要因では、重炭酸の継続、グラインダー法、エフィナコナゾールは有意な効果があると考えられた。重炭酸は、一般的な趾爪の成長速度とほぼ同等の結果から施設全般で有効であると示唆された。OFTは、5つの方法を同時に行うが、部分的な方法においても多くの業種の連携で継続的に行うことで糖尿病患者の重症爪白癬の改善には有用な方法になることが示唆された。